

●キリスト教の信仰にとって最も大切なのは「神の愛」であり、「神は愛である」ということに気づくという点にあります。使徒パウロは「神が人となり十字架で命を捧げてくださったイエス・キリスト」を繰り返し伝え、その愛を知らせています。この神の愛に圧倒されたパウロが伝えたのは「倫理や道徳」ではなく「神の愛」でした。今日のフィリピの信徒への手紙の中でパウロは「知る力と見抜く力とを身につけて、あなた方の愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」と祈っています。パウロは本当に重要なことは「神があなたを愛しておられるという事」だと告げているのです。

●パウロはこのフィリピの街に初めて宣教旅行に行った時、ある事件から迫害にあり、牢獄に捕らえられてしまったのですが、その時に地震が起こり牢屋の扉が全て開いてしまいました。その事を知った一人の看守が自害をしようしました。しかし、パウロは「待ちなさい、私たちはここにいる」と呼びかけ、彼を思いとどまらせました。この出来事に心を打たれた看守はどうすれば自分も救われることができるのかと問い、神の愛に触れて看守も家族も洗礼を受けてクリスチャンとなった、という話が使徒言行録 16 章に記されています。

今日の手紙の冒頭でパウロはフィリピの教会の人々が最初の日から今日まで福音にあずかっていることに溢れる喜びと神への感謝を表しています。この教会にはこの一人の看守を含め、神の愛に深い気づきを与えられた人々がいて、生き生きと活動を続けていたのでしょう。

●「ちょっと待て、神は愛なり」という言葉は神戸で虐げられた女性たちのために働き、神の愛を告げたキリスト者「城ノブ」の言葉です。須磨の一ノ谷海岸に立てられたこの「神は愛なり」の看板から 5 万人以上の人々が彼女の元に相談に訪れ、7000 人もの人々が救われ、彼女の意志を継いだ人々によって、今もその活動は続けられています。

「ちょっと待て、神は愛なり」という言葉は、私たちにとって最も大切なのは神の愛であることを知らせています。私たちは日常の慌ただしい生活の中で、また暗い出来事の多いこの世の中にあって、静かに立ち止まり、最も大切な主の愛を確認しつつ歩んで参りたいと思います。

